

〔普及の現場から〕

津山地域の稲ホールクロップサイレージ生産の取り組み

どこまで続く、パート3

津山農業普及指導センター

1 はじめに

津山地域は、飼料イネ作付面積が年々拡大し、平成21年度ついに50haを超える計画となっています。平成19年度に本誌に投稿してから3年で実に2倍の作付面積となりました。普及センターは、平成19年度発足した津山地域飼料稲生産利用研究会への支援として、低コスト栽培研修や、栽培ごよみを活用した栽培技術の向上、農薬の適正使用の徹底を図ったほか、部会活動、関係機関の連携調整などを行ってきました。

今年度も、地元集落営農組合が鉄コーティング作業機械を導入するなど新たな動きがありましたので報告します。

2 経過

平成20年度は、稲ホールクロップサイレージ（以下、稲WCS）の生産量確保を目指し、講習会等を通じて、飼料イネの基本的栽培技術の徹底や低コスト省力栽培技術の確立と普及、地域内の運搬・流通体制づくり、給与事例リーフレットの作成等を行いました。また、より良い稲WCSの生産を目指し、利用・生産部会や、地域部会などを開催し問題点や課題について協議を重ねました。

3 新たな動き

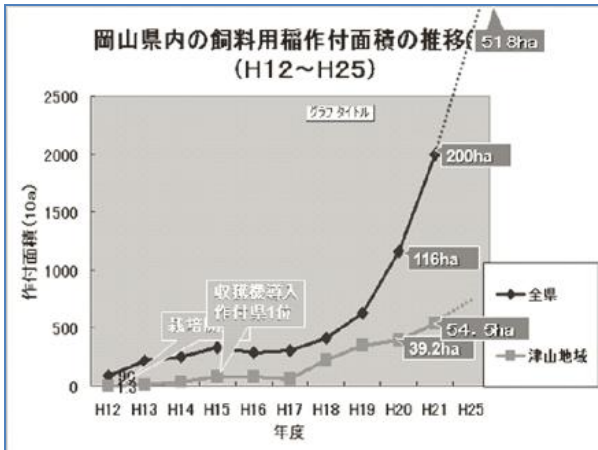
- (1) 津山市の綾部西集落営農組合が鉄コーティング種子量産体制確立

津山市の綾部西集落営農組合（内田寛志組合長、42名）は、今年度、湛水直播用の鉄コーティング種子製造機械を導入し、量産体制を確立しました。これは、籾の催芽処理からコーティング作業、乾燥までの行程を3台の機械を使って生産するもので、民間では初めての導入となります。地域内外の流通も視野に入れ体制を整備し、飼料イネに限らず食用水稻での取り組みが増加するものと期待を寄せています。

※この技術は、5年前に近畿中国四国農業研究センター（福山市）が開発したものです。

- (2) ラジコンヘリコプターで、鉄コーティング種子を散布（久米南町）

久米南町南庄の平野勝美さん（飼料イネ栽培者）と本岡正光さん（ラジコンヘリ所有）が試験的に、ラジコンヘリコプターによる湛水直播用鉄コーティング種子の空中散布を行いました。



| 取り組みの成果(栽培技術) | |
|---------------|---|
| H19 | <ul style="list-style-type: none"> 【収穫量】 9.0q-ル / 10a 【作付面積】 24ha 【湛水直播】 2.3ha 【栽培戸数】 51戸 【利用戸数】 8戸 |
| H20 | <ul style="list-style-type: none"> 【収穫量】 9.6q-ル / 10a 【作付面積】 39ha 【湛水直播】 6.3ha 【栽培戸数】 63戸 【利用戸数】 17戸 |



鉄コーティング潜水直播栽培使用機材 取得価格

| 機 材 名 | メーカー | 型式名 | 取得価格(税込) |
|--------------------|-----------|--------------------------------------|-----------|
| 汎用型田植機(6条、直播装置含む) | クボタ | 本機; NSU67、植付部; NU-67IKF、直播部; DS-6NKF | 3,050,000 |
| 初催芽機 | タイガーカワシマ | FH-500E | 225,000 |
| コーティングマシン(ミキサー) | 日工(NIKKO) | グリーンミキサ NGM-2.5BC | 210,000 |
| 大量製造機(水噴霧付平型通風乾燥機) | 金子農機 | | 1,365,000 |

汎用型田植機のリース料(綾部西集落営農組合)

| 対 象 | 基本料金 |
|------------|---------------|
| 組合員外者 | 10a当たり 7,000円 |
| オペレーター作業料金 | 10a当たり 1,000円 |
| 燃料代 | 満タンで返却 |
| 回送料 | 基本的に利用側が準備 |



今回の作業は、事前に周りのほ場管理者に承諾を得て実施しました。播種の作業時間は、1haを30分程度と、短時間で終わることができました。

残念ながら、播種と同時に散布できる飼料イネ用の除草剤がないため、除草剤散布には、動力散布機等による散播が別途必要となります。

(3) 茎葉デンプン蓄積型飼料イネ「中国飼198号」(津山市綾部地区) 津山市綾部地区のほ場で、2008年に中国四国農業研究センターが開発した、茎葉デンプン蓄積型系統「中国飼198号」の実証ほを設置しました。この中国飼198号は、クサノホシ熟期で着粒粒数がクサノホシの半分以下、穂数は多く、稈長は長いにもかかわらず、耐倒伏性は強いという特性を持った、期待の系統です。

4 今後の取り組み

今年度、普及センターは、良質で安定した稲WCSの生産を行うため、飼料イネの雑草防除や、刈り遅れ対策を重点課題として支援しています。

また、作付面積の急増に対応するため、稲WCS利用農家の実態調査と、地域内・外流通も視野に入れて対応する必要があります。関係機関の連携を強化しながら、より良い稲WCSが生産・利用されるよう支援していきます。

